

数学クォータ科目「応用解析」第2回 / ベクトル解析 (2)

# スカラー場の勾配

佐藤 弘康 / 日本工業大学 共通教育学群

# 前回のキーワードと今回の授業で理解してほしいこと

## 前回のキーワード

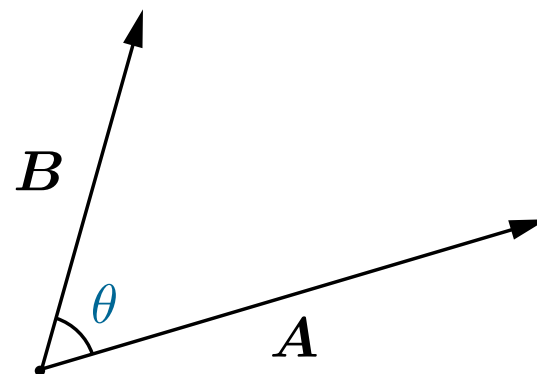
- ベクトル関数，ホドグラフ，ベクトル関数の微分（導関数）  
ベクトル関数の不定積分と定積分

## 今回の授業で理解してほしいこと

- スカラー場とベクトル場の定義
- スカラー場の等位面
- スカラー場の勾配
- スカラー場の方向微分係数

## 【復習 4】 ベクトルの内積

- ベクトル  $A, B$  があり, 始点が一致するよう平行移動したとき, 2つのベクトル (線分) のなす角が  $\theta$  であるとする.



- このとき,  $A$  と  $B$  の **内積**  $A \cdot B$  を以下の式で定義する.

$$A \cdot B = |A| |B| \cos \theta$$

- $A = a_1 i + a_2 j + a_3 k, B = b_1 i + b_2 j + b_3 k$  と基本ベクトル表示されるとき, 内積は  $A \cdot B = a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3$  と表される.

# スカラー場とベクトル場

## 定義

空間内のある領域  $\Omega$  内の任意の点  $P(x, y, z)$  に対し, スカラー (たとえば実数)  $\varphi(x, y, z)$  が対応するとき, この対応を  $\Omega$  上の **スカラー場** という.

**注** スカラー場とは, 定義域が  $\Omega$  の **3変数関数**  $\varphi(x, y, z)$  のことである.

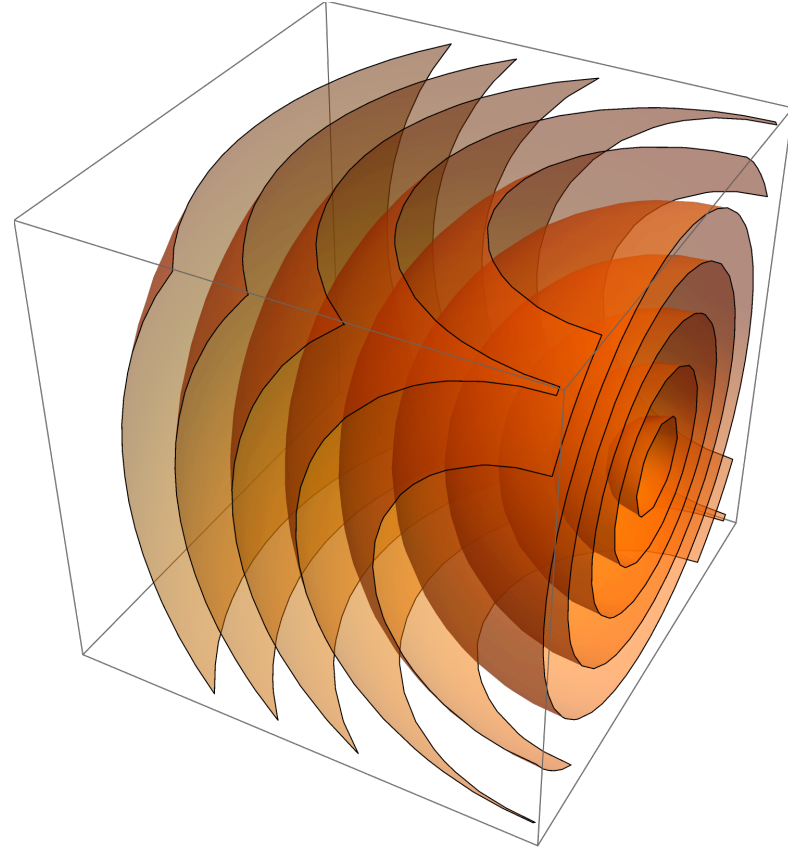
## 定義

空間内のある領域  $\Omega$  内の任意の点  $P(x, y, z)$  に対し, ベクトル  $A(x, y, z)$  が対応するとき, この対応を  $\Omega$  上の **ベクトル場** という.

**注**  $A(x, y, z)$  は空間ベクトルなので,  $A(x, y, z) = A_x i + A_y j + A_z k$  と基本ベクトル表示できる. 各成分の値は, 点  $P(x, y, z)$  に対して決まるので,  $A_x, A_y, A_z$  は3変数関数である. つまり, ベクトル場とは, **3変数関数の三つ組** のことである.

# スカラー場の等位面

例)  $\varphi(x, y, z) = x^2 + y^2 + z^2$



## 定義

スカラー場  $\varphi(x, y, z)$  と 定数  $c$  に対し,  $\varphi(x, y, z) = c$  を満たす点  $(x, y, z)$  の全体は, 一般に空間内の曲面となる. これをスカラー場の**等位面**という.

# スカラー場の勾配とナブラ演算子 $\nabla$

定義

スカラー場  $\varphi(x, y, z)$  に対し,

$$\text{grad}\varphi = \frac{\partial\varphi}{\partial x} i + \frac{\partial\varphi}{\partial y} j + \frac{\partial\varphi}{\partial z} k$$

で定まるベクトル場を,  $\varphi(x, y, z)$  の勾配という.

注 ベクトル微分演算子  $\nabla = i \frac{\partial}{\partial x} + j \frac{\partial}{\partial y} + k \frac{\partial}{\partial z}$  を導入すると, 次のような形式的な計算が可能である.

$$\nabla\varphi = \left( i \frac{\partial}{\partial x} + j \frac{\partial}{\partial y} + k \frac{\partial}{\partial z} \right) \varphi = i \frac{\partial\varphi}{\partial x} + j \frac{\partial\varphi}{\partial y} + k \frac{\partial\varphi}{\partial z}.$$

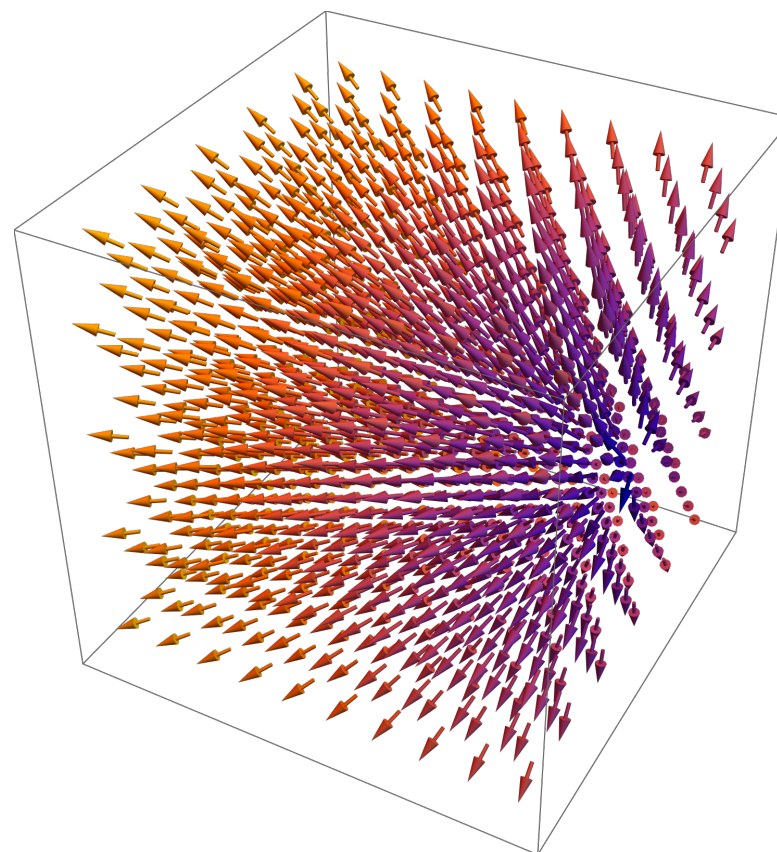
よって,  $\varphi(x, y, z)$  の勾配を  $\nabla\varphi$  と書くこともある.

# スカラー場の勾配とナブラ演算子 $\nabla$

例)  $\varphi(x, y, z) = x^2 + y^2 + z^2$  の勾配は

$$\begin{aligned}\nabla\varphi &= i\frac{\partial}{\partial x}(x^2 + y^2 + z^2) + j\frac{\partial}{\partial y}(x^2 + y^2 + z^2) + k\frac{\partial}{\partial z}(x^2 + y^2 + z^2) \\ &= 2x\,i + 2y\,j + 2z\,k\end{aligned}$$

となる.



# スカラー場の勾配の性質

## 定理

$\varphi(x, y, z)$  をスカラー場とし, その勾配を  $\nabla\varphi$  と書く.

- (1)  $\nabla\varphi(P)$  を, 点  $P$  を始点とするベクトルと考えると,  $\nabla\varphi(P)$  は点  $P$  を通る等位面に対して垂直である.

(証明は省略)

- (2) スカラー場  $\varphi$  の値は, 勾配  $\nabla\varphi$  の方向に沿って最も増加する.

(スライド p.10 の 注 を参照)



# スカラー場の方向微分係数

## 定義

スカラー場  $\varphi(x, y, z)$  の定義域内の点  $P(x, y, z)$  と,  
単位ベクトル  $u = u_x i + u_y j + u_z k$  に対し,

$$\begin{aligned}\frac{\partial \varphi}{\partial u}(P) &:= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\varphi(p + hu) - \varphi(p)}{h} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\varphi(x - hu_x, y - hu_y, z - hu_z) - \varphi(x, y, z)}{h}\end{aligned}$$

をスカラー場  $\varphi$  の点  $P$  における  $u$  方向への方向微分係数という.  
(ただし,  $p = \overrightarrow{OP} = xi + yj + zk$ )

# スカラー場の方向微分係数の意味と計算方法

- 点  $P(x, y, z)$  と単位ベクトル  $u = u_x i + u_y j + u_z k$  を固定し、  
ベクトル関数  $A(t) = p + t u = (x + t u_x, y + t u_y, z + t u_z)$  を考える。  
( $A(t)$  のホドグラフは、点  $P$  を通り、ベクトル  $u$  に平行な直線である)
- $\Phi(t) := \varphi(A(t))$  とおき、 $t = 0$  における微分係数  $\Phi'(0)$  を計算すると

$$\begin{aligned}\Phi'(0) &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\Phi(0 + h) - \Phi(0)}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\varphi(A(h)) - \varphi(A(0))}{h} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\varphi(x - h u_x, y - h u_y, z - h u_z) - \varphi(x, y, z)}{h} = \frac{\partial \varphi}{\partial u}(P)\end{aligned}$$

- 合成関数の微分の公式を利用して、 $\Phi'(0)$  を計算すると

$$\frac{\partial \varphi}{\partial u}(P) = \Phi'(0) = u_x \frac{\partial \varphi}{\partial x}(P) + u_y \frac{\partial \varphi}{\partial y}(P) + u_z \frac{\partial \varphi}{\partial z}(P) = u \cdot \nabla \varphi(P)$$

# スカラー場の方向微分係数の意味と計算方法

つまり, 方向微分係数  $\frac{\partial \varphi}{\partial u}(P)$  は

- 点  $P$  からベクトル  $u$  の方向に動いたときの **スカラー場の変化率** のことである.
- 偏微分係数を一般化したものである ;

$$\frac{\partial \varphi}{\partial i}(P) = \frac{\partial \varphi}{\partial x}(P), \quad \frac{\partial \varphi}{\partial j}(P) = \frac{\partial \varphi}{\partial y}(P), \quad \frac{\partial \varphi}{\partial k}(P) = \frac{\partial \varphi}{\partial z}(P).$$

- $\frac{\partial \varphi}{\partial u}(P) = u \cdot \nabla \varphi(P) \rightarrow$  方向微分係数の値が最大となるのは,  
 $u$  が勾配  $\nabla \varphi$  と同じ方向のとき.

# まとめと復習（と予習）

---

- スカラー場とは何ですか？
  - スカラー場の等位面とは何ですか？
  - スカラー場の勾配とは何ですか？（ナブラ演算子とは？）
  - スカラー場の方向微分係数とは何ですか？
  - スカラー場の方向微分係数と勾配の関係は？
- ベクトル場とは何ですか？

教科書 p.80～84

問題集 190, 191, 192, 193, 194

予 習 2次と3次の行列式 「数学」